

茂原市の磨崖仏

(NO. 356)
平成28年4月

現在、市内には市指定文化財となつている腰当・光福寺と未指定であるが、長尾・宝泉寺に磨崖仏がある。

宝泉寺は上総七里法華により、真言宗から顕本法華に改宗された歴史を持ち、「南無妙法蓮華経」と「不動明王」をミックスした扁額が礼堂内に掛けられている。(写真1)



写真1 扁額
(延享3年=1746年)

磨崖仏は、岩不動尊と呼ばれ、高さ約1.5m幅4m奥行き1m程の洞の壁にレリーフ状に彫られている。(制作年代は不明 写真2)

中央に、不動明王(左右に制吒迦童子・矜羯羅童子)。右に弁財天、左に毘沙門天を配置する。右部の弁財天は1987年の千葉県東方沖地震で大半が崩壊した。この磨崖仏は、イボ取りのご利益があり、磨崖仏の一

部を削り取り、患部に塗布すれば治るとされる。そのためであるのか、現状は摩耗が激しい印象を受ける。

「お不動様のかげらでイボが取れる」とはどういうことだろう。

一般的に、幾つかの種類イボは、ウイルスによつてできる。体内にこのウイルスに対する免疫が作り出されれば、イボは消滅する。

磨崖仏のかげらを患部に塗布するのはこの石片に医薬品としての有効成分が含まれるか否かは別とする。

お不動様のかげらをすり付けるといふ行為によつて「イボを消す」という自己暗示が形成される。すり付けるときにも「イボイボ消える」などと、調子をつけたり、替え歌のようにおまじないの言葉を添えたりするだろう。それがいつそう強く脳に働きかけることになり、脳は免疫系に作用し、ウイルスに対する免疫を作る。そして治療へ至るのだと考えられている。心理療

法である。まさに「病は気から」である。磨崖仏の摩耗の度合いから、いかに地域の人々に頼られているかが伺える。



写真2 宝泉寺の磨崖仏
中央不動明王、左毘沙門天

ちなみに、イボ取りはお地藏さまに多く、不動明王と結び付くのは珍しい。腰当・光福寺では、洞穴内部の一部崩落がみられる。かつての洞は一面に苔に覆われていたが、現在はずいぶん乾燥した状態になっている。洞穴内環境の変化が危惧されるが、3体の像(弁財天・娑竭羅竜王・薬師如来)はそれぞれに独立して配置されている。丸彫りに近い肉厚のレリーフで、当時の姿をどめてあつて保存状態は良い。制作年代は、同寺に伝わる資料の扁額から文政9年(1826)~1828)である。現在は、安全のため公開されていない。

茂原市文化財審議会委員

斉藤 望

文芸コーナー

俳句 逝きし友 思いて一人 冬日向 武居 敬子

短歌 お花見に何を着ようか部屋中が 脱ぎ散らかした服が散乱 時女 礼子

喜寿すぎた十五の春の面影を 確かめ合ひし同窓の宴 高石 久之

咲き誇る蠟梅の木に野の鳥は 羽を休めて吾を見下ろし 山本 明美

から池の白き小石の片隅に 命たくまし雑草を見る 霜田 友恵

草も木も眠り呆ける丑三つ時に 言葉は目覚めて短歌となりける 菊地 ミトリ

川柳 クロスワード解けてミントの風が吹き 木内 富美子

忘れたいことだけ残る箇条書き 福田 研治

反抗期迎えた孫に惑う爺 藤橋 由裕

手が届く距離で互いを庇い合ひ 道譯 賢一

トーストの香る過不足ない朝餉 大野 登志子

デイケア笑顔奉仕のボランティア 押野 三枝子

本採用共によるこぶ靴スーツ 吉野 千枝子

挑む未知コツコツが生む医療薬 風間 敬造



●偶数月は「俳句・短歌・川柳」を、奇数月は「詩」を掲載しています。
●投稿は楷書でお願いします。作品・氏名にふりがなをふってください。
※俳句、短歌、川柳の原稿送付先
〒297-8511 茂原市道表1番地 茂原市役所秘書広報課宛「文芸コーナー」と朱書きしてください。